

	熊本大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:513 第3年次:45） 大学院自然科学研究科（M:392 D:62）
沿 革	<p>明治30（1897）年 官立第五高等学校工学部設置</p> <p>明治39（1906）年 官立熊本高等工業学校設置</p> <p>昭和19（1944）年 熊本工業専門学校に改称</p> <p>昭和24（1949）年 新制熊本大学設置・工学部設置</p> <p>昭和40（1965）年 大学院工学研究科修士課程設置</p> <p>昭和61（1986）年 大学院工学研究科博士課程設置</p> <p>昭和63（1988）年 大学院自然科学研究科博士課程設置</p> <p>平成10（1998）年 大学院工学研究科を、大学院自然科学研究科博士前期課程・博士後期課程に改組</p>
設置目的等	<p>明治30年、熊本大学工学部の母体である官立第五高等学校工学部は、日本の産業界が大きく飛躍し、実業教育の特に地方での普及発達を目指すため設置された。</p> <p>明治39年、官立熊本高等工業学校となり、昭和19年、熊本工業専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時に、熊本大学工学部として承継された。</p> <p>昭和40年、研究者の養成、社会的要請の高まりつつある高度の専門的な職業人の育成を目的に、工学研究科修士課程を設置した。</p> <p>昭和61年、科学技術の急速な進展により、新しい学問体系の確立が必要となってきたことや、幅広い知識と柔軟な応用能力を持つ有能な人材が強くもとめられていることから、理学から工学に至る幅広い分野を包含し、新しい総合化の理念に基づいた教育研究を進めるため、工学研究科に博士課程を設置した。</p> <p>昭和63年、理・工学部を主体として、学内の自然科学系の協力により、多方面の複合領域に柔軟に対処し、堅実な基礎学力と広い分野にわたる応用能力を備えた総合的視野を持つ実践的人材の育成を目的に、自然科学研究科博士課程を設置した。</p> <p>平成10年、科学技術の急速な発展や先端新分野の出現への対応、18歳人口の急減に対応する大学院教育の充実等、科学的・社会的要請</p>

	<p>に適切に対応するため、理学研究科修士課程・博士課程と工学研究科修士課程・博士課程が自然科学研究科博士前期課程・博士後期課程に改組された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>熊本大学においては、優れた資質や能力、高度な専門性を備えた技術者及び研究者を養成するとともに、高度な科学技術の提供により人類の福祉と文化の進展、自然との共生に寄与する。あわせて、工学研究の推進や先端科学技術の開発によって工学の進歩、地域・産業界の発展に貢献することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下のような強み、特色、社会的役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的な視野に立つ幅広い知識と柔軟な応用能力を持つことのできる教育を実施し、高級技術者の育成を行うとの教育方針の下、地域と国際社会に貢献する指導的役割を担う高度な技術者及び研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。 ○ 学部を超え、大学を超え、国を超えたものづくりの協働教育や、大学院における授業の全面英語化を取り入れた国際共同教育などの特色ある教育や国際的通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、6年一貫教育をベースにしてグローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育の構築を目指すとともに、社会のニーズに対応した教育プログラムの開発・改善・充実を図る。 ○ 世界をリードするマグネシウム合金を中心とした材料工学、パルスパワー・衝撃エネルギーを利用した多様な研究分野に加え、多くの基盤的工学分野における高い研究実績を生かし、段階的・階層的な研究支援を展開しながら、今後とも先端的な研究を強力に推進するとともに、次代を担う革新的研究と人材を育成する。 ○ 受託研究・共同研究の受け入れ、特許取得などの産学連携の経験、中小企業向けトライアル支援事業などの実績を生かし、我が国並びに地域の産業を支える実践的な研究の取り組みを一層推進するとともに、地域の発展に貢献する。 ○ 長期履修制度などの社会人博士学位取得支援制度、みなまた環境マイスター養成プログラムなどの実績を生かし、職業上必要とされる高度な知識修得のための社会人学び直しを推進する。